

土岐市消防本部からのお知らせ



地震による 電気火災対策していますか？



地震による電気火災対策には感震ブレーカーが効果的！！

地震が引き起こす電気火災には、「発生直後の火災」と停電から電気が復旧した際の「通電火災」の2種類があります。

「通電火災」とは、停電から電気が復旧した際に転倒・破損した家電製品に通電することで火災が起きる現象です。

「感震ブレーカー」とは、地震の大きな揺れを感知して電気を自動で遮断する器具で、地震の際の電気火災の発生を抑制する効果があります。

地震時の 通電火災にご注意

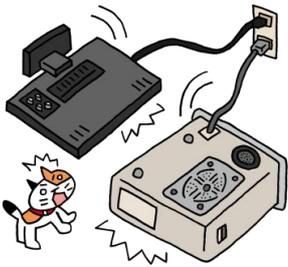


1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災の出火原因で判明しているうち6割が電気に起因する火災とされています。

通電火災 イメージ

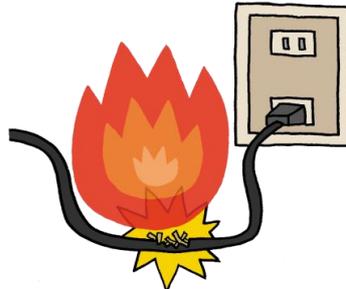
①地震発生(停電)

- ・停電発生
- ・家具等が転倒し、「電気コード」が損傷



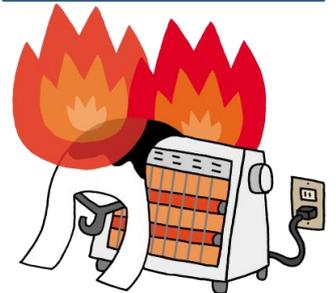
②避難中(通電)

- ・停電した状態から通電、通電の瞬間、コードがショート



③火災発生

- ・散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火



災害時は、避難している際に電気供給が再開し、誰もいない家で火災が発生してしまう可能性があります。慌てて避難する際に、ブレーカーを落とすなどの通電火災の予防行動が必ずとれるとは限りません。

感震ブレーカーを設置することは、通電火災に対して有効な手段とされています。また、木造住宅密集地域に特に有効とされています。



感震ブレーカーとは？

感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーで感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の地震が起こると、自動的に電気の供給を停止させるものです。

感震ブレーカーは、工事が必要な物から、工事が不要なコンセント型の物などもあり、機能がそれぞれ異なるため、各家庭の状況に応じて設置するものを選ぶことができます。

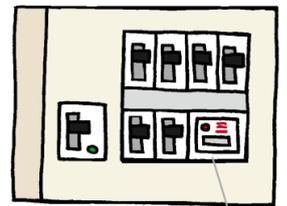


感震ブレーカーの種類と特徴

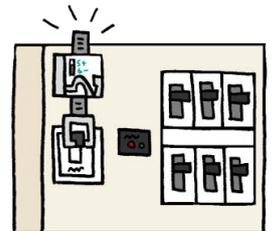
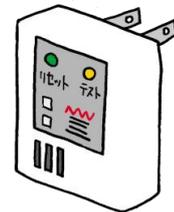
・分電盤タイプ

分電盤に内蔵されたタイプの他に、分電盤に感震機能を外付けするタイプがあります。一定の震度を感知して電気を遮断するため、基本的には全ての電気が遮断されます。取り付けには工事が必要です。

費用：内蔵型 約5～8万円（標準的なもの）
後付型 約2万円 注：価格はあくまでも目安です。



感震センサー



・コンセントタイプ

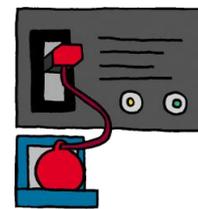
工事が不要なタイプ（コンセント差込型）と、工事が必要なタイプ（コンセント埋込型）があります。個別のコンセントの電気を遮断することができるため、電気ストーブやヒーターなどの熱を発生する器具を接続する箇所に適しています。

費用：約5千円～2万円程度 注：価格はあくまでも目安です。

・簡易タイプ

ブレーカーに直接取り付けるもので、工事の必要はありません。揺れを感知し作動すると即座にすべての電気が切れる仕組みになっています。

費用：約2～4千円程度 注：価格はあくまでも目安です。



感震ブレーカーの設定に際しては、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えて下さい。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

感震ブレーカーの他にも火災予防対策を!!

感震ブレーカーは通電火災対策には大変有効です。しかし、地震による火災の原因は通電火災だけではありません。ガスによる火災、石油ストーブなどの暖房機器による火災など様々なことに気をつけなければいけません。

感震ブレーカーを取り付けたからといって、過度な安心感を持つのは避けましょう。もしもの時のために住宅用の消火器を用意するなど、二重三重の火災予防対策を講じる必要があります。